

台湾のエレクトロニクス産業

— 電子部品の供給基地化する台湾、EMS は海外で世界に向けて生産

ジェットロ・アジア経済研究所 新領域研究センター
研究センター長 佐藤幸人

製品の組み立てを請け負う電子製品部門は主に海外で、
半導体はじめ電子部品部門は台湾中心に、異なるかたちで発展を遂げている。

現在、工業製品のサプライチェーンはグローバルに発達している。なかでもエレクトロニクス製品のサプライチェーンのグローバル化は著しい。その結果、エレクトロニクス・メーカーの生産は、その本社が所在する国では必ずしも行われていない。つまり、当該国の経済活動とその企業の生産活動との間にずれが生まれている。

台湾においてもこのようなずれは顕著である。シャープの買収によって日本でも広くその名を知られることになった鴻海精密工業（ホンハイ、以下「鴻海」）をはじめ、台湾には種々のエレクトロニクス製品の生産を請け負う複数のEMS（Electronics Manufacturing Service、電子機器受託生産企業）があるが、現在、台湾で行われているエレクトロニクス製品の生産は限られている。一方、台湾において最も活発に生産を行っている製造業は電子部品部門である。本稿ではこのようなずれを踏まえながら、台湾生まれのEMSの台湾を超えた活動と、台湾という場所における電子部品部門の発達にアプローチしたい。

1. 台湾企業と台湾という場所

(1) 台湾製造業を主導するEMS

図表1に掲示しているのは、2017年の台湾製造業企業の売上高上位10社である。トップの鴻海をはじめエレクトロニクス・メーカーが7社を占めている。さらに、7社のうち半導体のファウ

ンドリ専門メーカーのTSMC以外の6社は全てEMSである。

(2) 電子部品部門に傾斜する台湾エレクトロニクス産業

EMSは主としてエレクトロニクス製品の組み立てを担っている。前述のように台湾には複数の巨大なEMSがあるが、それにもかかわらず台湾のエレクトロニクス産業における電子製品部門の比重は小さい。生産や輸出をみると、台湾エレクトロニクス産業は電子部品部門に大きく傾斜している。

まず、台湾製造業の付加価値生産額の構成をみ

図表1：台湾製造業企業の売上高ランキング
(2017年)

単位：億元

	売上高	税引き後利益
1 鴻海精密工業（ホンハイ）	47,067	1,387
2 和碩聯合科技（ペガトロン）	11,938	147
3 広達電腦（クアンタ）	10,212	144
4 台湾積体電路製造（TSMC）	9,774	3,431
5 台湾中油	8,966	403
6 仁宝電腦工業（コンパル）	8,877	58
7 緯創資通（ウイストロン）	8,361	39
8 台塑石化	6,241	802
9 英業達（インベンテック）	4,675	68
10 統一企業	3,999	398

（出所）『天下雑誌』第647期（2018年5月）より作成
（注）■はエレクトロニクス・メーカー、太字はEMS